

## 「やってやれないことはない」 何にでもチャレンジ

大川商工会議所女性会会長  
料亭・旅館 三川屋  
六代目女将 大和 寿子 さん

昨年12月3日に発足した大川商工会議所女性会。その初代会長に就任されたのが、今回お話を伺った大和寿子さんです。

会長というお話があった際は、女性の活躍できる場が増えるのは非常に良いことだと思いい、二つ返事で了承されたそうですが、「やっぱり戸惑いのほうが大きかった」とのことでした。しかし、会長という役に就くのは、「私に与えられた運命」とも話されました。

「なにかをお願いされた時、その運命には逆らわないようにしようというのは、三川屋六代目を継ぐと決めた時から自分の考えです」と言われて「出来ません」と

いう言葉はまず言わないようにする、言われたら有り難いと思っただけでも受けなさいというの、大和さんのお父様である加藤貢さんから言われ続けていたことだともお話しいただきました。また「やってやれないことはない」が大和さんご自身の座右の銘。何にでもチャレンジしようという気持ちは強いとのこと。会長という立場については、最終的にはまとめ役だということも考えも持っていないらしいです。

「若輩者だが、若いメンバーも意見が言いやすく、先輩方も意見が言いやすいのが自分だと思っています」では会長という役についてから、変わったことはなん



三川屋の外観



観光パンフレット等が並ぶ店内







女性会設立総会

しようか。大和さんは「今までよりも忙しくなりました。でも忙しいことはいいこと」と笑って話されます。「暇が一番苦痛だけど、リフレッシュする時間も必要。忙しい中でも時間は自分でつくるものだ」と改めて感じています。今日やることの準備をしてから、今日に至る。それ



女性会設立総会で挨拶をする大和さん

を早め早めにしなきゃいけないと、つくづく思っています。まだ全然出来ていませんけどね!!」  
限られた時間の中で、上手にスケジュールを組んでいくのも大切なことなのかもしれない。お話を伺いながら、思わず自分の仕事ぶりについても考えさせられました。  
大川商工会議所女性会は、福岡県下19会議所中15番目に発足した女性会となります。発起人会、設立総会を経て、本格的に動き出したばかり。まずは親会である商工会議所や、街のお祭り事やイベントの手伝いを行って、『大川商工会議所女性会』の名前を浸透させたいとのことでした。  
役員会などを開けば、意見がよく出るとも話されています。意欲的なメンバーが多く集まっておられるので、それだけ活発に出てくるのでしよう。

「業種や年齢の差を超えて幅広く、色々な方々に入会してもらいたいですね。堅苦し  
い会ではなく、自分を高めようって気持ちになっていく、とても良い会なので、商工会議所の会員であれば気軽に入会して欲しいです。また商工会議所会員になって入会して欲しいですね」  
女性会としては、今後どういった事をやっていきたいと考えているのかお聞きしたところ、「方向性としては同じ方向を向いてないといけないけど、いろんなことを参考にして、大川らしい、女性らしい、私達にしかできないことをやりたいですね」とお話しされました。  
「5年後には、今これをやるのかと言っていることがきちんとならなくて、地元で根付いた活動をしたいですね。早く出来あがるに越したことはないですが、あまり急いでも浮いた状態ではいけないです。土台をしっかり作り上げていかないと……。子育てからちよつと手の離れた女性が、楽しそうな会だから入ってみようかな」と思えるような会にしていきたいとのことでした。  
ある年齢を過ぎてから、女性もやつと外に出ていくことが出来るようになってきます。その機会をつくるのも、女性会なのかもしれません。大和さんご自身も「なかなか外に

出ていけなかった」とお話されています。  
「仕事柄、大川に来て頂いておもてなしをすることが中心なので、ほとんど他所に出て行っていないですね。会長になってからは、色々な場所に出入りして、色々な方とお会いできるのが非常に嬉しいです」  
職種問わず、様々な人との繋がりが出来るのが女性会の良いところのひとつではないでしょうか。「出合いが私にとつての財産」と大和さんが仰っていた通り、女性会で掛け替えのない財産を見つけれられるかもしれません。  
またご自身のことを、チャレンジャーとも仰っていました。「なんにでもチャレンジしようって気持ちは多いと思います。チャレンジせずに出来ないという言葉を私は言わないようにしています」  
そうお話ししていただいたとおり、大和さんは大型バイクやマイクロボスの運転免許取得にもチャレンジされ、見事合格されています。女性会の総会やライオンズのチャリティーパーティーにいくと、ダンスパーティーのようにな



ることも多いため、「次は社交ダンスに挑戦したい」とのことでした。  
「踊れないから嫌って断るのもかっこ悪いなって思っています。踊れないなら、次は挑戦しないと」  
女性会の会長としてのお話をお伺いした後、本業である三川屋の女将としてのお話もお伺いすることが出来ました。5月からはエツの季節にもなります。今以上に大忙しの毎日が始まることでしょう。美味いエツを提供するために、早朝からエツを捌くことも少なくないとのことでした。  
「三川屋に来ないと食べられない一品を出すのが私の仕事。エツの一番美味しいところを知っているからこそお客様に食べてもらいたいですね。一番美味しいところをお客様に提供するのが、私達の使命だから」